



朝 風

北海道天塩高等学校
学校だより 第3号
令和3年12月1日発行

令和3年度 筑波大高大連携事業 シンポジウム開催

令和3年11月1・2日の2日間にわたり、天塩町役場の高大連携事業として、天塩高校第2学年を対象に1日目のワークショップ、2日目午後より町民に向けてシンポジウムを開催しました。

この高大連携事業は今年で6年目になり、今年度初めて「総合的な探究の時間」という授業の枠内で、さらに任意参加から2学年全員参加の形で行いました。

当初8月開催の予定でしたが、初めての試みであることや新型コロナの影響などが重なり、大幅に延期して、11月の開催となりました。

11月1日（1日目）

筑波大学とのオンライン事前学習であらかじめ8つのグループに分かれ、それぞれのテーマでワークショップを実施。グループそれぞれに担当の学生がつき、大学生のアドバイスのもと、地域を元気にするアイデアを出し合いました。

A	西天北地域の物流を考えよう
B	西天北地域全体の食を盛り上げよう
C	天塩の特産品をアピールしよう
D	天塩の隠れた資源を見つけよう
E	天塩の空き地を活用しよう
F	動物や自然と共存する町を目指そう
G	天塩の広大な土地を活かして地域おこしをしよう
H	天塩に旅行に来た人に向けてツアーを考えよう



iPad、ICTを活用したワークショップ。Jamboardを使って、KJ法やグループでの意見共有、発表を行いました。

各グループは町内に学生の引率で視察にも行きました。自分の目で見て触れることで、また新たな気づきもあったようです。

11月2日（2日目）

2日目は、日本経済新聞社の浅沼様の講演からスタート。ご自身の新聞記者としての活動や経験を通してお話しいただき、貴重な講演となりました。

その後は午後から行われるシンポジウムに向けての準備。昨日の内容を確認し、それぞれのグループが円滑に発表できるよう打ち合わせを行いました。

午後はいよいよシンポジウム本番です。遠く離れた筑波からは筑波大学の副学長がオンラインで参加、天塩町長をはじめ、多くの来賓や町民に向けて、高校生の視点から自分たちの町に対する提案を行いました。

2年生の中からも活発な質問もあがり、実りあるシンポジウムになったと感じます。



更岸小学校視察。羽幌線のレガシーが保管されている。



発表された提案は順位付けされ、天塩町をはじめ筑波大学など協賛していただいた団体から賞品をいただきました。

シンポジウムに参加した来賓の皆様からも、高校生の提案をぜひ実現できるよう応援したい、という言葉いただきました。また、筑波大学副学長からも発表ごとに講評を、さらには高校生に激励のメッセージもいただきました。このシンポジウムをとおして、高校生も町づくりに参加できたという実感がわいたのではないかと思います。

生徒からは、

- ・今まで考えたことがなかったが、町の課題が見つかったと思う。
- ・今まで知らなかった、地域の様々なことを知ることができた。
- ・試食がおいしく、珍しいものが食べられた。
- ・大学生がたくさん話してくれて、こっちも楽しかった。
- ・大学生は私たちにはない行動力があった。
- ・町長をはじめ、私たちが発表した提案を真剣に聞いてくれたと思う。
- ・大学生が支援してくれたので、提案の中身が濃くなった。



などの声が聞かれ、特に大学生との交流が印象に残っているようでした。



町長から商品を受けとる生徒達

このシンポジウムでの発表の上位入賞者の代表生徒は、1月9日に行われる筑波大学が行っている高大連携事業の発表会に、他高校との交流を兼ねて参加します。他高校の取り組みを知ること、また新たなステップに進むことを期待しています。

来年度の2年生についても、今回の事業を行う予定であり、1年生もこのシンポジウムに全員参加しています。1年生は今年度、天塩町長の講話を始めとして、役場訪問、郷土資料館、河川公園、振老沼、森づくりに関する講演、などこの地域の歴史や自然などを学習しています。その学習を活かし、来年度においてもよりよい町づくりの提案をして欲しいと願っています。

最後に

天塩高校では「総合的な探究の時間」において、今年度以降地域学習を中心に行うこととしました。地域に求められていることは何か、を高校生自らが考える時間として有効に活用できればと思っています。

地域の皆様方には、様々な場面でご支援ご協力をいただくことがあると思いますが、何卒引き続きお力添えくださいますようお願い申し上げます。

また、何かご意見やご要望があれば、天塩高校までご連絡いただけるとたいへん助かります。今後とも地域の学校として、私たちに何ができるのかを考え皆様とともに天塩町を盛り上げていければと思っています。

